

平成 21 年 5 月 22 日現在

研究種目：若手研究 (B)
 研究期間：2007～2008
 課題番号：19730118
 研究課題名 (和文) 安定期におけるナショナリズム：
 冷戦後日本のアイデンティティと其の変化
 研究課題名 (英文) Nationalism in a Time of Peace: National Identity and Change in
 Post-Cold War Japan
 研究代表者
 J・Patrick Boyd (BOYD, James Patrick)
 早稲田大学・国際教養学院・助手
 研究者番号：50449328

研究成果の概要：

研究成果として、1) 戦後日本のナショナリズムの要素となる 40 個のコードを記載するコーディング・マニュアルの作成、2) 戦後首相の所信表明・施政方針演説、そしてこの演説に対する最大野党代表の質疑と大手新聞社 3 社の社説のデータベース化 (収集・電子化・整理)、3) コーダー間の信頼性を確認するデータベースのコーディング結果などがあげられる。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	1,300,000	0	1,300,000
2008 年度	400,000	120,000	520,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,700,000	120,000	1,820,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・政治学 3501

キーワード：政治学、比較政治、ナショナリズム

1. 研究開始当初の背景

(1) 近年、日本では「ナショナリズム」が強まっていると国内・国外のメディアは報道し、「日本ナショナリズム」は世界の関心を再度集め始めている。しかし、マイケル・ビリグが指摘したように、従来のナショナリズム研究は、革命期のフランスや専制国家などを対象としており、成熟した近代民主主義国家を対象とする研究事例は少ない (Billig, 1995)。本研究は、全ての近代国家において、ナショナリズムは存在し、変化することを前提としている。

(2) また、日本のナショナリズム研究の多

くは、戦時中のナショナリズムに焦点を置き、冷戦後の平和時におけるナショナリズムはあまり研究されていない。小熊英二の『民主と愛国』や姜尚中の『ナショナリズム』などの著作を例外として挙げても、ナショナリズムの強弱や変動を計量的に説明しようとする研究もあまり進んでいない (小熊, 2002; 姜, 2001)。

(3) ナショナリズムの定義は定まっておらず、政治学においても定義は様々である。ただし、政治学において、アンソニー・スミスが提唱するナショナリズムの定義がよく使われている (Smith, 2001)。スミスは、三つ

の基本原則を指摘する：

National Solidarity: ネーションとは、個人の忠義の焦点となるべきこと。

National Autonomy: ネーションには、母国の領土に自治権がなくてはならない(つまり国家を有するべき)こと。

National Identity: 近代社会におけるグループのアイデンティティの要点は、領土国家を有するネーションの一員であること。しかし、国境が比較的安定している成熟した近代民主主義国家を対象とすると、上記のと「ネーション(民族・国民)」と「国家」のつながりはすでに形成されているため、ナショナリズム自体、既存のつながりを再確認もしくは、新たなつながりを作る過程(プロセス)となる。つまり、近代民主主義国家の場合、が最も該当し、ナショナリズムの変化を研究することにあたって、ネーション(民族・国民)と「国家」のつながりを形成するナショナル・アイデンティティに焦点を絞る必要がある。

2. 研究の目的

(1) 本研究の目的の一つは、「民族・国民」と「国家」のつながりを形成するための手段として主に政治家が使用する「ナショナル・ナラティブ」(national narrative: 国家形成や国家像などに関する逸話)に焦点を絞ることによって、ナショナリズムを説明することです。例えば、戦後日本の「ナショナル・ナラティブ」の一例を挙げると、日本は「唯一の被爆国」であり、日本民族・国民の被爆経験から、核兵器廃絶を求め、日本は核兵器を持たないユニークな国家である。このように、ナショナリズムを幾つかの「ナショナル・ナラティブ」に分類し、分析の対象とする。

(2) その「ナショナル・ナラティブ」の変化を一定の基準によって選出された政治レトリック(政治演説等)を量的に内容分析することにより、近年、特に冷戦中と冷戦後の日本のナショナリズムがどのような変化を遂げたかを明らかにしていく。

3. 研究の方法

(1) 「ナショナル・ナラティブ」の選出とコーディング: 戦後日本史に関する文献を調べ、最も顕著で継続性があると思われる「ナショナル・ナラティブ」を選出し、それぞれに頻繁に表れる語彙を選出し、計量テキスト分析用のコードやコーディングルールを定めるコーディング・マニュアルを作成する。

(2) レトリック(演説、社説など)のサンプルの選定・収集・電子化・整理: 日本を代表する政治家やメディアが定期的に「民族・

国民」と「国家」のつながりについて公に意見交換をする国会開会式のレトリックを分析の対象として選定し、戦後の首相所信表明演説・施政方針演説、最大野党代表質疑、それらに関連した大手新聞社3社の社説のデータ収集を完了し、内容分析を正確にできるように、電子化・整理する。

(3) コーダーの起用・研修とコーディング方法の確認: 研究支援者として大学院生2名をコーダーとして起用し、上記のコーディング・マニュアルに定めたコードやコーディング方法を習得させる。この2名が、レトリックのサンプルの10%を試験的にコーディングすることによって、問題点を発見し、コードやコーディングルールを改善する。コーディング・マニュアルを改善した上、さらにサンプルの10%をコーディングし、二人のコーダー間の信頼性(inter-coder reliability)を測り、コーダー間の信頼性の低いコードをコーディング・マニュアルからはずす。

(4) レトリックのサンプルのコーディング: サンプルの残りを二人のコーダーでコーディングする。このコーディング結果の量的変化の内容分析をする。

4. 研究成果

(1) コーディング・マニュアルの作成: 従来の戦後日本のナショナリズムの研究に基づき、「ナショナル・ナラティブ」を六つのグループに絞り込み、分析対象とした。

商人国家(技術立国を含む): 日本は、資源が少ないため、技術開発やイノベーションに専念することによって、輸入材料に付加価値を加え、製品や投資を世界市場に輸出する必要があり、もしくはこれらの分野において特別な能力のある国家である。日本を「商人・実業家」や「技術者」として例えることです(Berger, 1998; Gao, 1998; Samuels, 1994)。

単一民族国家: 日本は、一つの民族からなる国家である。同質的な単一民族(大和民族)が昔から日本の領土を治めてきた。天皇や神社がこの民族的な絆を象徴する。「少数民族」は日本には存在しない。日本を「大和民族」としてとらえること(Oguma, 2002)。

平和国家(唯一の被爆国を含む): 日本は、過去の歴史の被害と反省のもと、世界に例のない平和憲法を持ち、国際紛争を武力で解決しない国家である。日本を「平和主義者」として例えること(Berger, 1998; Katzenstein, 1996; Orr, 2001)。

文化国家(福祉国家を含む): 日本は、世界に高く評価される芸術や文学などの文化を持ち、また国民・民族の福祉を保障する国家である。日本を「芸術作品を作る職人・芸

術家」や「高度な文明を持つ社会」として例えること(吉野, 1997)。

民主主義国家：日本は、法律に準拠して行われる自由民主主義の政治制度を持つ国家である(Doak, 1999; Kersten, 1996)。

大国(経済大国・軍事大国)：日本は、他国と比べ、大国である。特に、他国より経済力や軍事力を持つ国家である(Wendt, 1999)。

(2) さらに、内容分析を行うために、この「ナショナル・ナラティブ」の要素を80個ほどのコードと定め、コーディング・マニュアルにまとめた。アブデラルらのアイデンティティ分析方法を起用することによって、「ナショナル・ナラティブ」の要素のコードは、四つの基本種類に分類した(Abdelal, et al., 2003)：

認知モデル(cognitive models)：「ナショナル・ナラティブ」の中に現れる現実を簡素化する前提(例：商人国家の「日本の資源不足」論、単一民族国家の「少数派(マイノリティ)のない状況」論など)認知モデルは、現実を簡素化する役割を果たす要素です。

規範(norms)：「ナショナル・ナラティブ」の「教訓」として現れる判断・評価・行為などの基準(例：平和国家(唯一の被爆国)の「日本の非核姿勢」、単一民族国家の「国内における道徳(愛国心など)の徹底」など)規範は、政府の政策に影響を及ぼす可能性の高い要素である。

他国や国際機関と比較するために使われているレトリック(relative comparisons)：国際機関(例：国連など)、日本の近隣国(例：中国、韓国など)、近隣国との二国間問題(例：領土問題、基地問題など)、他の国名(地域別)など、「ナショナル・ナラティブ」と対外的に関連する要素となるはずである。

社会的目標(social purposes)：「ネーション・ステート」(nation state)の集合としての目標(例：繁栄、平和、安全など)である。これらは、「ナショナル・ナラティブ」と同時に存在する要素となるはずである。

(3) 第四次吉田内閣以降の戦後首相の所信表明・施政方針演説、そしてこの演説に対する最大野党代表の質疑と大手新聞社3社の社説を収集・電子化した。首相の演説、それに対する最大野党代表の質疑、それに対する大手新聞社3社(朝日、毎日、読売)の社説が、五点セットとなり、これらを「演説セット」と呼ぶ。占領が終わる1952年から2007年までの演説セット136個を分析対象とする。このデータの内容分析をするために、基本分析単位を文章とし、それぞれの演説・社説の文章に番号を付け、データベース化を完了。

(4) コードやコーディングルールを確認するために、二人のコーダーが演説セットの10%を試験的にコーディングした。このことにより、コードが多すぎ、内容が重複しているなどの問題を発見し、解決策を考え、コーディング・マニュアルを改善した。最終的に、コードの一部を削除し、他国との比較に関連するコードを次回の課題に位置づけに、もとの80個コードを半分に減らした。残り40個の中、19個はキーワードを単語に限定し、21個は概念説明し、コーダーの判断に委ねている。そこで、コーダー間の信頼性を確認するために、新たに、演説セットのサンプル10%をコーディングさせ、コードの結果が一致する割合(percent agreement)とコーヘン・カッパ(Cohen's Kappa-偶然性とコードの結果の共起を統制する係数)の二つの指定の基準を使用し、コーダー間の信頼性を計算した(Neuendorf, 2002)。

(5) 本研究の位置づけとインパクト：これまで、首相演説を内容分析する研究はすでにあるが、これらの演説に野党質疑や新聞社説を加え、一つのデータベースとして研究された事例はない。さらに、このようなデータを内容分析するにあたり、コーディング結果とコーダー間の信頼性の係数を同時に発表した事例はない。

(6) 今後の展望：今後、コーディング結果の分析をまとめ、冷戦後の日本のナショナリズムがどのような変化を遂げたかを明らかにし、論文として取りまとめる。

- Abdelal, Rawi, Yoshiko Herrera, Alastair Iain Johnston, and Rose McDermott. 2006. Identity as a Variable. *Perspectives on Politics* 4 (4).
- Berger, Thomas U. 1998. *Cultures of Antimilitarism*. Baltimore: John Hopkins University Press.
- Billing, Michael. 1995. *Banal Nationalism*. London: Sage.
- Doak, Kevin M. 1999. Review: Democracy in Postwar Japan: Maruyama Masao and the Search for Autonomy. *Journal of Asian Studies* 58 (2):523-525.
- Gao, Bai. 1998. The Search for National Identity and Japanese Industrial Policy, 1950-1969. *Nations and Nationalism* 4 (2):227-245.
- 姜尚中『ナショナリズム』(岩波書店, 2001)
- Katzenstein, Peter J. 1996. *Cultural Norms and National Security: Police and Military in Postwar Japan*. Ithaca, NY: Cornell University Press.
- Kersten, Rikki. 1996. *Democracy in Postwar*

- Japan: Maruyama Masao and the Search for Autonomy*. London: Routledge.
- Neuendorf, Kimberly A. 2002. *The Content Analysis Guidebook*. Thousand Oaks, Calif.: Sage Publications.
- Oguma, Eiji. 2002. *A Genealogy of Japanese Self-Images*. Melbourne: Trans Pacific Press.
- 小熊英二 『民主と愛国』(新曜社, 2002)
- Orr, James Joseph. 2001. *The Victim as Hero: Ideologies of Peace and National Identity in Postwar Japan*. Honolulu: University of Hawaii Press.
- Samuels, Richard J. 1994. *'Rich Nation, Strong Army': National Security and the Technological Transformation of Japan*. Ithaca, NY: Cornell University Press.
- Smith, Anthony D. 2001. *Nationalism: Theory, Ideology, History*. Cambridge, MA: Polity Press.
- Wendt, Alexander. 1999. *Social Theory of International Politics*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 吉野耕作 『文化ナショナリズムの社会学』(名古屋大学出版会, 1997)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 件)

なし

〔学会発表〕(計 件)

なし

6. 研究組織

(1)研究代表者

J・Patrick Boyd

早稲田大学・国際教養学院・助手

研究者番号：50449328